

環境リモートセンシング研究センター教員会議（第7回）議事要旨

1. 日 時 平成28年10月13日（木）10:30～11:35
2. 場 所 環境リモートセンシング研究センター会議室（1階）
3. 出席者 安岡センター長、久世教授、近藤教授、樋口准教授、本郷准教授、本多准教授、梶原講師
委任状 ヨサファット教授、入江准教授、齋藤助教
欠席者 土屋事務センター長
オブザーバー 楊特任助教

4. 議 題（審議事項）

(1) リモートセンシングコースについて

○久世教授から、資料1-1～3のとおり融合理工学府の設置について説明があった。引き続き、9月6日の入試課との打合せ、9月26日の各学部長との打合せについて報告と意見交換があった。

主な内容は以下のとおり。

- ・融合理工学府 地球環境科学専攻に、地球科学コース、都市環境システムコースと並んでRSコースが設置される。
- ・理学部地球科学科と工学部情報画像学科から卒研究生を受け入れる状況が当面続くため、これまでと同じくそれぞれの学部から修士のRSコースを受験できる方式について相談した。入試を複雑化しないため、RSコースの入試は工学系または理学系とあわせ1日で行うのが望ましいとのことであった。
- ・修士課程は、H28年8月の入試の結果が出てコースとしての充足率に問題があるが、H28年12月に理学の修士留学生入試、H29年1月頃に博士の2回目の入試、8月に10月入学の入試が予定されており、今後、充足率を高める機会がある。
- ・大学院の教務に関することは、これから融合理工学府の設置準備委員会での議論が始まることである。各コースの代表者が集まる運営会議が設けられるのではないかと見込まれる。CEReSとしてはRSコース内で理学系と工学系が別の研究院に所属する形ではなく、融合理工学府の中で垣根を低くした形での運営を行うことを強く希望したい。
- ・学部長側から、研究センター所属の教員については、学部兼務をより柔軟にして卒研究生を受け入れられるように制度を見直すことを検討してみたいとの発言があった。

○樋口准教授から、地球科学コース、都市環境コースとのリエゾンWGについて報告があった。

- ・地球環境科学専攻内で修論発表会をオープンにするなど、コース間で互いがどのようなことを行っているのかを知ることは重要である。
- ・3年後の入試については、専攻で揃えた入試ができる可能性がある。
- ・学部の連携でも、科目の相互乗り入れなども検討できるのではないかと。

○修士の入試について

- ・RSコースとして、H29年7月下旬に受験者一人あたり十分に時間をかけて口頭試問を行う方針で進めてはどうか。外部受験者も増やすようにしていく。

(2) その他 特になし。

5. 連絡事項

- ・梶原講師より、省エネステッカーを研究室に貼るよう依頼があった。
- ・事務より、12月22日、教員会議の前にハラスメントに関するFD研修を実施する予定であると連絡があった。

以上